

第 4 期地域福祉計画進捗状況【概要版】

1 事業の実施状況・成果

- 福祉総合相談窓口におけるひきこもり相談の開始や重層的支援会議の実施により、包括的な相談支援体制の充実が図られた
- こども家庭センター「ぎゅっと」の設置により、妊娠期から子育て期まで切れ目のない相談支援体制の強化が図られた
- 基幹相談支援センター及び権利擁護・成年後見センターの設置により、障がい者支援や権利擁護支援の体制整備が進んだ
- 大雨災後に被災者生活支援・地域支え合いセンターを設置し、被災世帯への継続的な見守り・相談支援を実施したほか、個別避難計画と見守りネットワークの一体化を進めるなど、災害時支援体制の強化が図られた
- 除雪支援や住民主体の居場所づくり、買い物支援など地域の支え合い活動が拡大した
- 地域計画（地域ビジョン）の策定支援により地域課題の共有が進んだ
- 子育て支援、高齢者支援、障がい者支援、生活困窮者支援等の各分野で関係機関との連携が進んだ



2 課題

1 地域福祉を支える担い手と地域活動基盤の強化
人口減少や高齢化の進展により、地域活動や見守り活動、ボランティア活動等の担い手不足が進んでいる。また、自治会や地域団体の活動継続、地域拠点の維持も課題となっており、多様な主体の参画促進と活動基盤の強化が必要である。
2 地域の見守り・支え合い機能の充実
孤独・孤立への対応や災害時の避難支援など、地域における見守り体制の重要性が高まっている。個別避難計画の推進とともに、平時からの支え合い活動の強化が求められている。
3 複雑化・複合化する福祉課題への対応
ひきこもりや生活困窮、複合的な課題を抱える世帯など、支援ニーズは多様化・複雑化している。相談につながりにくい人への支援や継続的な伴走支援を行うため、関係機関による横断的な連携強化が必要である。
4 高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくり
高齢化の進展に伴い、認知症支援や生活支援、介護予防、医療・介護連携などの重要性が高まっている。地域包括ケアシステムの充実と、高齢者を地域全体で支える体制づくりが求められている。
5 障がいのある人の地域生活を支える体制の充実
障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、相談支援体制や社会参加の促進、関係機関との連携強化など、一人ひとりの状況に応じた支援体制の充実が必要である。
6 子ども・子育て世帯への切れ目ない支援の充実
子育て家庭を取り巻く課題が多様化する中、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援や、児童虐待予防、ヤングケアラー支援等について関係機関との連携を強化し、子どもと家庭を包括的に支える体制づくりが必要である。また、放課後等デイサービスを含む障がい児支援についても、保護者や子どものニーズに応じたサービス提供体制の充実が課題となっている。
7 健康づくりと予防を重視した地域づくり
誰もが健康でいきいきと暮らし続けられるよう、健康づくりや介護予防、疾病予防の取組を推進するとともに、地域ぐるみで健康を支える環境づくりが求められている。